

# 病害虫発生予報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 6月の病害虫発生予報

## 【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（葉いもち）	少ない	並	果樹	白ねぎのネギハモグリバエ	やや多い	並
	紋枯病	並	並		果樹のカメムシ類	少ない	並
	斑点米カメムシ類				リンゴの輪紋病	並	並
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	多い	—		リンゴの褐斑病	やや多い	並
	アカスジカスミカメ	多い	—		リンゴのキンモンホソガ	少ない	並
	トゲシラホシカメムシ	少ない	—		リンゴのハダニ類	やや多い	やや早い
	ニカメイガ	並（局部多い）	早い		ニホンナシの輪紋病	少ない	並
	イネミズゾウムシ	並	—		ニホンナシの黒星病	やや少ない	並
	イネドロオイムシ	並	—		ニホンナシのナシヒメシクイ	並～やや多い	並
	ツマグロヨコバイ	少ない	—		ニホンナシのハマキムシ類	やや少ない	並
大豆	茎疫病	やや少ない	並	ニホンナシのハダニ類	並	やや早い	
	タネバエ	やや少ない	並	ブドウの灰色かび病	並	並	
	ネキリムシ類	やや少ない	—	ブドウのべと病	並	並	
野菜	タバコガ類	並	並	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	並	並	
	ネキリムシ類	やや少ない	—	モモのせん孔細菌病	やや多い	並	
	白ねぎのさび病	やや少ない	並	チューリップの球根腐敗病	やや多い	—	
	白ねぎのネギアザミウマ	やや多い	—	チューリップのアブラムシ類	多い	—	
			花き球根	タバコガ類	並	並	

富山県農林水産総合技術センター

農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

# I 水 稻

## 1 いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容            発 生 量：少ない  
                             発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生は確認されなかった。
- ・6月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

(3) 防除対策

- ・放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・平年の初発日は7月7日であるが、気象条件によっては6月中旬に確認されることがあるので、BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・防除指針 28～29 ページ参照

## 2 紋枯病

- (1) 予報内容            発 生 量：並  
                             発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・前年9月5日調査では発病株率が5.9%で平年（8.8%）よりやや低かったが、一部地域では多かった。

(3) 防除対策

- ・平年の初発確認日は6月23日であるので、ほ場の観察に努める。
- ・防除指針 27～28 ページ参照

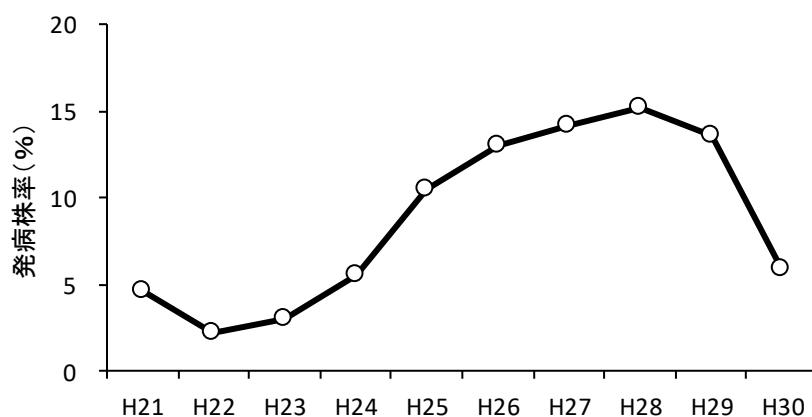


図1 紋枯病発病株率の年次推移（9月5日調査）

### 3 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は2.36頭で平年（1.54頭）より多かった。

- (3) 防除対策

- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

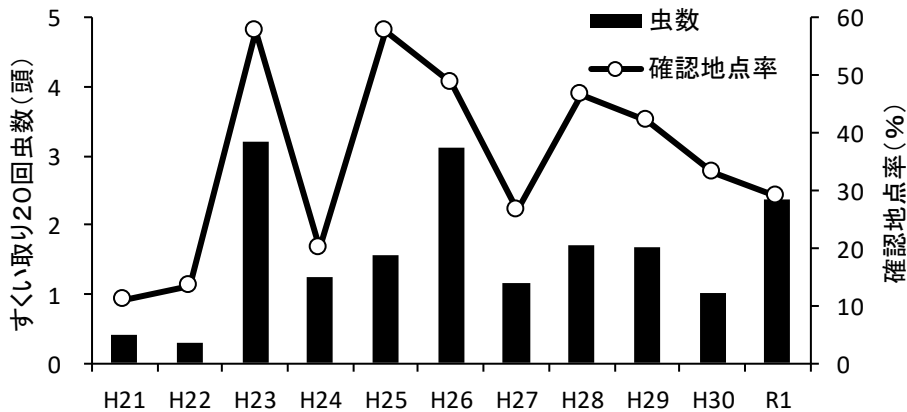


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

### 4 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は2.56頭で平年（0.85頭）より多く、確認地点率も33.3%で平年（16.7%）より高かった。

- (3) 防除対策

- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・ 防除指針 40～42ページ参照

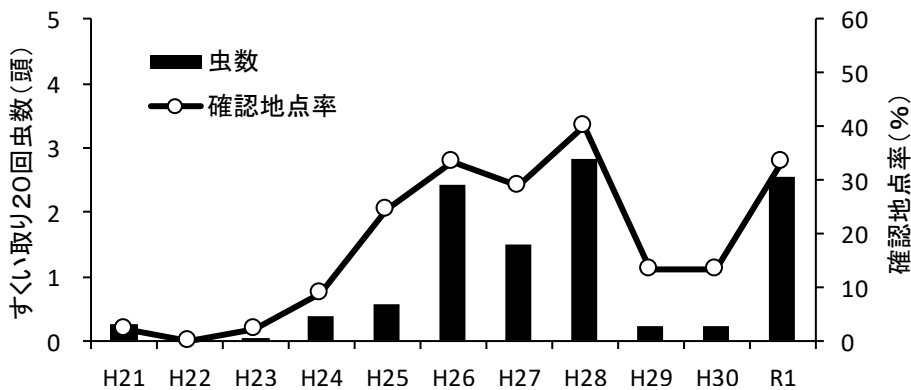


図3 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

## 5 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0頭で平年（0.07頭）より少なく、確認地点率も0%で平年（4.4%）より低かった。

- (3) 防除対策

- ・畦畔等の雑草管理に努める。
- ・防除指針 41～42ページ参照

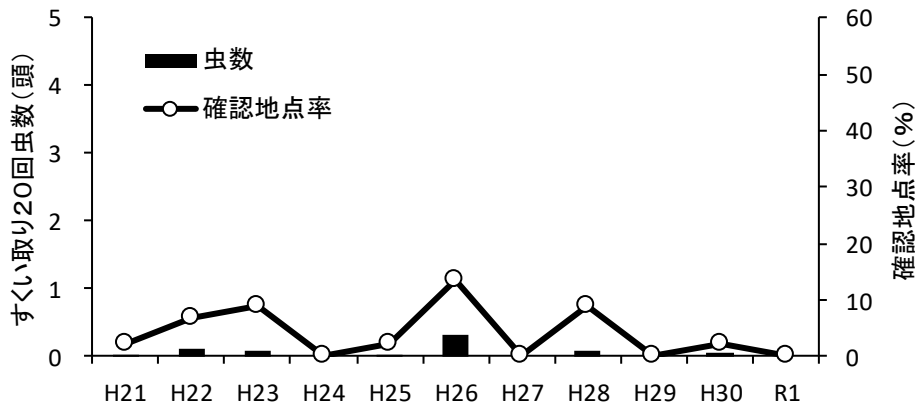


図4 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

## 6 ニカメイガ（第1世代）

- (1) 予報内容 発生量：並（局部多い）  
発生時期：早い

- (2) 予報の根拠

- ・前年の越冬前10a当り生幼虫数は108頭で平年（173頭）よりやや少なかったが、本年の予察灯およびフェロモントラップへの誘殺数は一部地域で多かった。

### 【早発要因】

- ・予察灯およびフェロモントラップへの越冬世代成虫初飛来日が平年より早かった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 35～36ページ参照

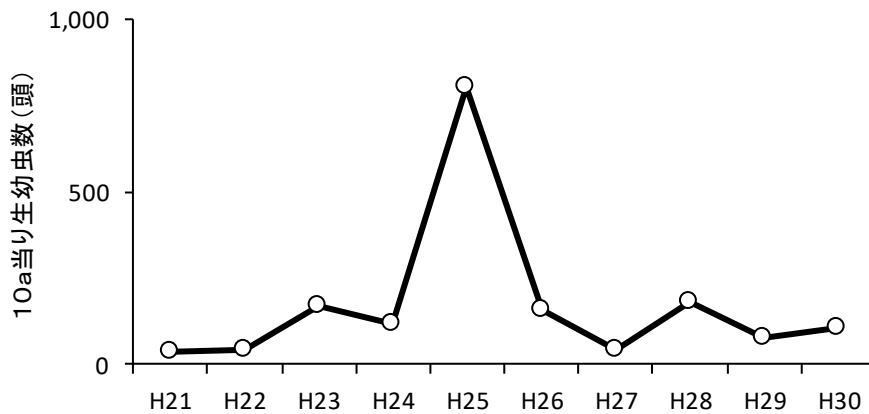


図5 ニカメイチュウの生幼虫数年次推移（越冬前調査）

## 7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・5月20日調査では被害葉率が0.42%で平年(0.27%)よりやや高かった。

- (3) 防除対策

・防除指針 34 ページ参照

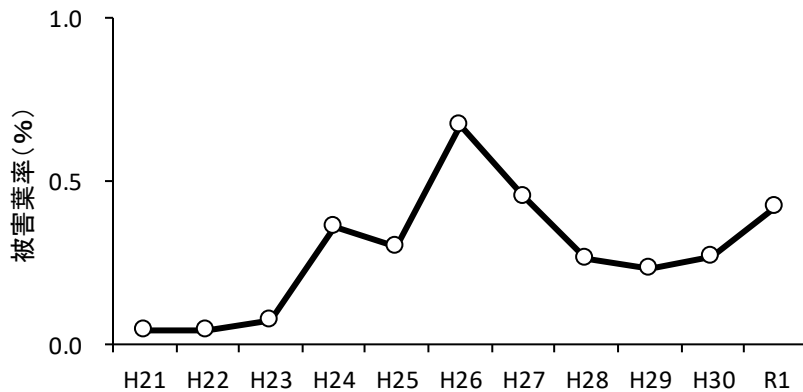


図6 イネミズゾウムシの被害葉率年次推移(5月20日調査)

## 8 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並  
(2) 予報の根拠

・前年6月20日(被害盛期)の調査では被害葉率が0%で平年(0.01%)並であった。

- (3) 防除対策

・防除指針 35 ページ参照

## 9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・越冬後調査のすくい取り20回虫数は0頭で平年(0.4頭)より少なかった。

- (3) 防除対策

・防除指針 37ページ参照

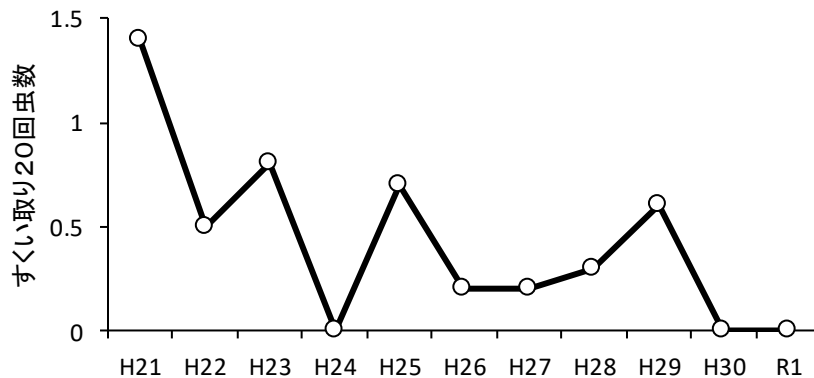


図7 ツマグロヨコバイのすくい取り状況年次推移(越冬後調査)

## Ⅱ 大豆

### 1 茎疫病

- (1) 予報内容            発 生 量：やや少ない  
                             発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月の降水量は平年並か少ないと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ほ場の排水に努める。
- ・防除指針 51～52 ページ参照

### 2 タネバエ

- (1) 予報内容            発 生 量：やや少ない  
                             発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・早期播種や堆肥及び緑肥施用ほ場では、被害が多くなるので防除を徹底する。
- ・ほ場の排水に努める。
- ・防除指針 51、53 ページ参照

### 3 ネキリムシ類（タマナヤガ、カブラヤガ）

- (1) 予報内容            発 生 量：やや少ない

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～5半旬までの誘殺数は、タマナヤガ 17.9 頭(平年 31.7 頭)、カブラヤガ 100.7 頭(平年 131.1 頭)で、ともにやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・出芽後定期的にはほ場を見回り、食害の早期発見に努める。
- ・ほ場周辺の雑草は、播種の一週間程前に刈取る。
- ・防除指針 51 ページ参照
- ・末尾に参考資料

## Ⅲ 野 菜

### 1 タバコガ類 (タバコガ、オオタバコガ)

- (1) 予報内容            発 生 量 : 並  
                             発生時期 : 並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガ0頭(平年0.6頭)、オオタバコガ1.0頭(平年1.6頭)で、ともに平年並となっている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 80～144 ページ参照

### 2 ネキリムシ類 (タマナヤガ、カブラヤガ)

- (1) 予報内容            発 生 量 : やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～5半旬までの誘殺数は、タマナヤガ17.2頭(平年31.7頭)、カブラヤガ100.7頭(平年131.1頭)で、ともにやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 80～144 ページ参照
- ・末尾に参考資料

### 3 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容            発 生 量 : やや少ない  
                             発生時期 : 並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 109 ページ参照

### 4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容            発 生 量 : やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・5月25日の調査では被害株率が5.0%で平年(7.8%)並であったが、6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 111～112 ページ参照

## 5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・5月25日の調査では被害株率が2.0%で平年(1.2%)よりやや多く、前年の発生も多かった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 111 ページ参照

## IV 果 樹

### 1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は3.9頭で平年(9.1頭)より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・山林に近い園地などでは発生に注意し、飛来が認められた場合は防除を実施する。
- ・防除指針 リンゴ151, 156, 159, 160ページ、ニホンナシ162, 167, 170ページ、カキ177, 180ページ参照

### 2 リンゴの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。

- (3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期であるので、殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、降雨前に散布する。
- ・防除指針 151, 154, 158, 159ページ参照

### 3 リンゴの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期であるので、殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、



降雨前に散布する。

- ・防除指針 151, 153, 154, 158, 159ページ参照

#### 4 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月1～4半旬の誘殺数は0頭で平年（2.5頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・6月上旬（第1世代成虫発生盛期）は重要防除時期なので、防除を確実に実施する。
- ・防除指針 151, 155, 156, 159, 160ページ参照

#### 5 リンゴのハダニ類（ナミハダニ）

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・6月の気温は高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 151, 155, 157ページ参照

#### 6 ニホンナシの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期であるので、殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、降雨前に散布する。
- ・防除指針 162, 163, 164, 165, 166, 169ページ参照

#### 7 ニホンナシの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

・ 現在までの発生量は少ない。

(3) 防除対策

- ・ 黒星病に感染した果実や葉は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- ・ 殺菌剤の散布間隔が開きすぎないように注意し、降雨前に散布する。
- ・ 防除指針 162, 163, 164, 165, 166, 169ページ参照

## 8 ニホンナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：並～**やや多い**

発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる5月1半旬～4半旬の誘殺数は2.4頭で平年(3.4頭)より少なかったが、一部地域で26頭とその地域の平年(2.6頭)と比較し多かった。

【早発要因】

- ・ 本年の誘殺のピークが4月5半旬であり、平年の4月6半旬よりやや早かった。

(3) 防除対策

- ・ 6月上中旬(第1世代成虫発生盛期)は重要防除時期なので、防除を確実に実施する。
- ・ 防除指針 162, 166, 167, 170, 171 ページ参照

## 9 ニホンナシのハマキムシ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 県内主要産地におけるフェロモントラップによる5月第1～4半旬の誘殺数は4.0頭で平年(8.0頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 成虫発生盛期(平年では5月5半旬頃)の7～10日後に防除を実施する。
- ・ 防除指針 162, 166, 167, 170, 171 ページ参照

## 10 ニホンナシのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

- ・ 前年の発生量は平年並であった。

【早発要因】

- ・ 6月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 162, 168, 170, 171ページ参照

## 1 1 ブドウの灰色かび病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・落花後は重要防除時期なので、散布間隔が開きすぎないように注意し確実に実施する。
  - ・袋かけ前に果房に花カスが残らないように取り除く。
  - ・防除指針 173, 174, 175ページ参照

## 1 2 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・前年の発生量は平年並であった。
- (3) 防除対策
  - ・防除指針 173, 174, 175ページ参照

## 1 3 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる5月第～4半旬の誘殺数は116頭で平年（145頭）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・6月下旬～7月上旬（第1世代ふ化幼虫発生期）が重要防除時期であるので、防除を確実に実施する。
  - ・防除指針 177, 178, 180, 181ページ参照

## 1 4 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・これまでの春型枝病斑の発生量は平年よりやや多かった。
- (3) 防除対策
  - ・果実への感染被害を防ぐため、防除を丁寧に実施するとともに6月中旬までに袋掛けを終わらせる。
  - ・防除指針 183, 184, 186ページ参照

## V 花き・球根

### 1 チューリップの球根腐敗病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・6月の気温は高いと予想されている。

(3) 防除対策

・発病株の抜き取りを徹底する。

・適期の掘り取りに努める。

・掘り取り後は速やかに水洗・乾燥する。

・防除指針：198～199 ページ参照

### 2 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・チューリップ予察ほ場において5月中旬以降の有翅虫飛来数が平年よりも多かった。

・6月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除対策

・生育後半まで定期的に薬剤を散布する。

・防除指針：199、223～224 ページ参照

### 3 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガ0頭(平年0.6頭)、オオタバコガ1.0頭(平年1.6頭)で、ともに平年並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 208～209, 216, 218, 224, 228 ページ参照

- ・農薬の使用にあたっては、使用回数、使用時期等の使用基準を遵守する。
- ・周辺作物や住宅地等への農薬の飛散防止に努める。

参考資料

ネキリムシ類のトラップ誘殺数調査結果(令和元年度)

現在のところ、トラップ誘殺数はタマナヤガ、カブラヤガともにやや少ない。

表1 タマナヤガのトラップ誘殺数 (平年値:H21~30年)

月・半旬	入善町上野			立山町五百石			射水市七美			南砺市竹内			平均			
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	
5	1	0	0	7.8	2	19	8.9	3	0	8.3	0	0	4.6	1.3	4.8	7.4
	2	0	0	4.0	5	13	11.0	3	1	8.5	1	1	4.9	2.3	3.8	7.1
	3	0	1	4.1	6	11	8.4	5	1	8.5	0	1	3.3	2.8	3.5	6.1
	4	12	2	4.0	8	15	6.4	3	2	8.5	1	1	1.4	6.0	5.0	5.1
	5	8	6	8.4	6	10	7.0	3	3	6.4	2	0	2.1	4.8	4.8	6.0
	6		7	10.4		18	7.5		3	6.5		0	3.3		7.0	6.9

表2 カブラヤガのトラップ誘殺数

月・半旬	入善町上野			立山町五百石			射水市七美			南砺市竹内			平均			
	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	本年	前年	平年	
5	1	0	3	20.2	20	26	37.7	15	7	21.9	14	14	15.8	12.3	12.5	23.9
	2	0	1	24.3	17	18	38.3	21	9	16.3	23	15	17.7	15.3	10.8	24.2
	3	6	6	34.0	29	73	41.9	24	20	15.7	19	9	20.5	19.5	27.0	28.0
	4	35	14	25.4	22	54	35.2	17	21	13.9	21	21	27.7	23.8	27.5	25.6
	5	35	80	47.5	34	48	30.9	16	19	17.4	32	15	21.7	29.3	40.5	29.4
	6		48	41.7		31	30.1		18	12.9		14	19.2		27.8	26.0

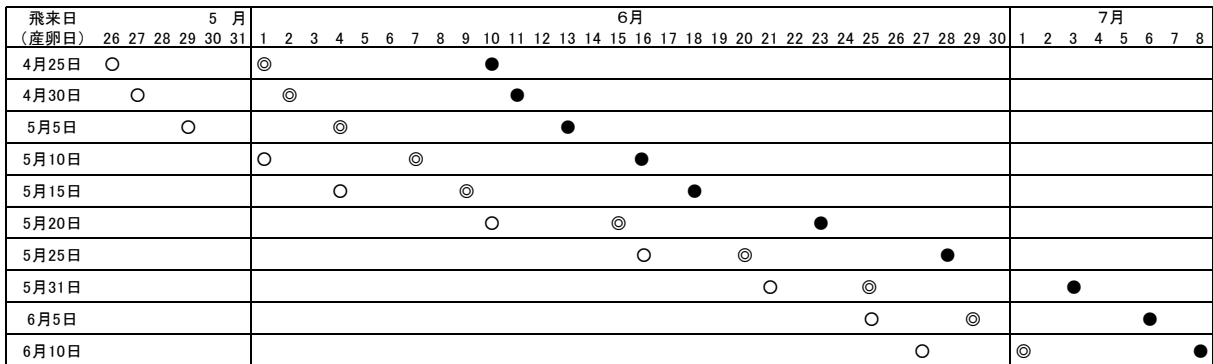


図1 積算気温から推定したタマナヤガ幼虫による大豆茎切断被害発生時期の予測(富山市)

注1) ○:茎切断開始時期(3齢幼虫出現時期) ◎:本格的な茎切断開始(5齢幼虫出現時期) ●:茎切断終了時期(蛹化開始時期)  
 注2) 平均気温は富山市のアメダスデータを利用し、5月26日までは実測値、5月27日以降は平年値

【茎切断被害の発生予測方法】

- ① トラップ誘殺数が多い日(飛来日)を産卵日とする。
- ② 積算気温から推定した大豆茎切断被害発生時期の予測図から茎切断時期(4 齢幼虫～蛹化前)を確認する。
- ③ 常発地や播種時にネキリムシ類に登録のある薬剤を使用していない場合は、茎切断被害の発生リスクのある期間中にほ場を見廻り、被害の早期発見に努める。

今後、トラップ誘殺数が増える場合は、大豆茎切断被害発生時期の予測図を参考にほ場での被害状況を確認し、茎切断率が15%を超える場合には防除する。

# 北陸地方 3か月予報

(6月から8月までの天候見通し)

令和元年5月24日  
新潟地方气象台 発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

6月 平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

8月 平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

## <向こう3か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>

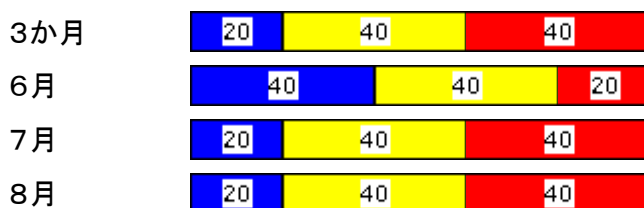
### 【気温】

[北陸地方]



### 【降水量】

[北陸地方]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)